



# みよし

令和3年 2月18日

文責 久保島 修

## 春よ来い!

つい先日、新たな年を迎えたと思っていましたのに、瞬く間に2ヵ月が過ぎようとしています。

1月は「行く」、2月は「逃げる」と申しますが、毎年のことながら学校の3学期の時の経つ早さには驚くばかりです。

間もなく迎える3月は「去る」と言われておりますので、これからは今まで以上に先を見据えて計画的に、一日一日を大切に過ごしながら、年度のまとめをしっかりとしていきたいと思えます。



保護者の皆様におかれましては、2月12日(金)は、お忙しい中、PTA教育講演会並びに授業参観・学年部会総会に御出席いただきまして、ありがとうございました。谷村第二小学校の保護者の皆様の、学校に対する御理解と御協力を改めて痛感し、感謝の思いを募らせております。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ☆「反応する」ということ☆

(大切にしたい姿勢)



小学校の教師は年間で約1000時間の授業をします。1000時間の授業で私たちは、いろいろなことを子供たちに学ばせていきます。その内容は、漢字をおぼえとか計算が出来るようになるとかいう知識に関するもの。公平・公正などといった言葉に代表される道徳観に関するもの。さらには、人と人との関わりを培う社会性などと実に多岐にわたっています。

ところで人間は、一生のうちに実に多くの人と出会うことになります。人と人とのつきあいの中で「反応する」というのはとても大切なことだと思っています。ですから、学校生活の中で子供たちには「反応する」ことの大切さを身に付けさせたいと思っています。全国全ての教師は「友達を大切にしろ」と子供たちを諭します。では、授業の中で「友達を大切にしろ」とは、どういうことを言うのでしょうか。それは、友達の考えや行動に対して何かしらの「反応」をまずはしていくことだと思っています。この「反応」というのは、「僕も同じ考えだよ」とか「僕はちょっと違うんだけど…」などと相手に対して自分の考えを示していくことです。谷村第二小学校の子供たちには「反応するという姿勢」を学校だけではなく、普段の生活の中でも大事にしてほしいと思います。「おはよう。おやすみなさい」から始まって「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」「たすかるよ」「すごいね」……出し惜しみしない習慣が自分にも身に付きますように。



## \*感謝状を頂きました(^\_^)v



昨年度に引き続き、大月警察署長様から本校が感謝状を頂きました。

本校としては大月警察署から感謝状を頂く側ばかりの関係ではなく、日頃は警察署の方に大変お世話になっています。交通安全教室・防犯教室・自転車教室・職員の防犯訓練・登下校時の見守り等々、年間を通して谷村第二小学校のために沢山尽くしてくださっていることに、改めて感謝したいと思います。



## ☆テストによって測ることの出来ない力☆

～校長雑感～

3学期、1年間をしめくくる学期を子供たちは過ごしています。各教室ともに学習の成果を測るため、いわゆるテストの回数も多くなります。さて、人間の能力、実力には「テストによって測ることが出来るもの」と、「テストによって測ることが出来ないもの」があります。どちらが大切かと言えば、両方とも大切だと思えます。



しかし、「どちらか一つだけ」というなら「テストによって測ることが出来ないもの」を選ぶ人が多いのではないのでしょうか。それは「テスト」が悪くても「テストによって測ることの出来ない力」を持った子ならいつかは克服をすることが可能だからです。小学生のころテストの点数が悪くても、あとになって伸びていったという子はいくらでもあります。お家の方も、小学生の同級生を思い起こした時に「思い当たる方」がたくさんいらっしゃるのではない



でしょうか。

「テストによって測ることの出来ない力」を持っている子なら、多少「ワンパク」でも大丈夫だと思っています。それよりも逆の場合が問題なのです。つまり「テストの点数がいい子」でありながら「テストによって測ることの出来ない力」が不足している子が問題なのです。「テストの良さ」によってはカバーしきれないものがあるからです。「テストだけが良くて、ほかに何も出来ない人間」の存在が企業などで問題になっていますが、まさにそれかもしれません。

では「テストによって測ることの出来ない力」とは何でしょう。それは体験することによって身につけていく能力です。たとえば目的を達成するまで工夫するという力です。いろいろな人の中では我慢しなければならないこともあるという体験です。自分のやろうとしていたことが達成出来たときの喜びです。あるいは、思うようにならなかったときの悔しさです。このような力は「テスト」だけでは得られないのです。一つ一つの体験の中で身につけていくものです。



生活体験を豊かにするにはちょっとしたコツがあります。例えばお使いをさせる場合にも、ただ「〇〇を買ってきて」と頼むのではなく「一番安い所で」「新鮮なものをお願い」など一つの課題を与えると良いと言われています。あるいは「二つの店を回って調べてから買ってきて」と頼むのもいいでしょう。つまりは子供たちの知的好奇心をちょっとくすぐってやるようなスパイスがあると良いようです。1人でお使いなんて、今の世の中危険でさせられないかもしれませんがそのエッセンスを学びたいものです。

## ~~~~~ 学校生活の様子より ~~~~~

### 「こぶたの会」本の読み聞かせ

2月5日（金）に、1・2年生が、「こぶたの会」による本の読み聞かせの会を楽しみました。

楽しい「こぶたの会」の歌から始まり、その後は、尺八のBGMも加わった素敵な本の朗読を聞き、児童達は本の世界に浸って楽しんでいました。大きな絵本や紙芝居・・・次はどんなお話が始まるのかとワクワクする楽しい読み聞かせの会でした。「こぶたの会」の皆さん、ありがとうございました。



### 「昔の道具」出前授業



2月10日（月）に、3年生が社会の授業で、県立博物館の教育主事 村田裕紀先生、学芸員の丸尾依子先生をお招きして、昔の道具について学ぶ、出前授業を受けました。

例年であれば、県立博物館より昔の道具をいくつか持参していただき、実際に子供たちが触って体験する活動を行っていましたが、今年度はコロナ禍の中でできるだけ接触をしない内容を考えてくださいました。

今年は「灯り」をテーマにして昔の灯りと今の灯りについて、持参していただいた「火打ち石」「灯明（とうみょう）」「燭台（しょくだい）」「行灯（あんどん）」「提灯（ちょうちん）」などに実際に灯りを灯し、現在の灯り「電球」「懐中電灯」「LED」などと比べて明るさを体験してみる活動を行いました。昔の人の苦勞が実感出来たことや、昔の「趣のある灯り」に気付くことができました。普段はできない、貴重な経験ができた出前授業でした。